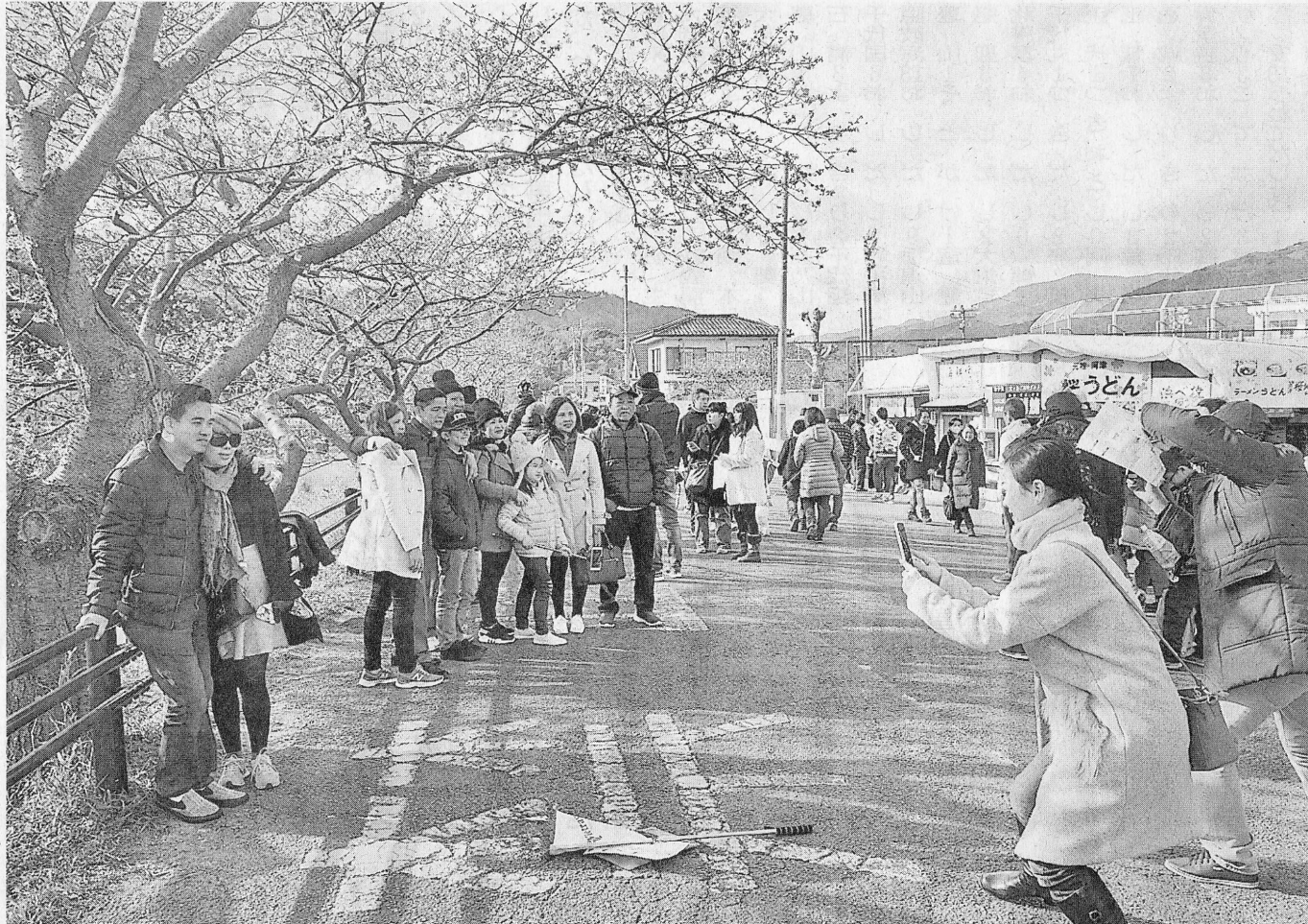


桜と「対話」する春

春は花、花は桜である。今年も桜の開花を告げる「さくら前線」が北上中で、これから約2カ月間、列島各地でそれぞれの花見が楽しめる。

静岡地方気象台(静岡市駿河区)の敷地内にソメイヨシノの桜がある。「標

本木」と言って、この時期には職員が毎日この木を観察している。そして、この木の桜が5、6輪開花した日が「静岡の開花



県内の花見シーズンの始まりを告げる河津桜の開花を楽しむ人々＝河津町、全日写連・竹之内範明さん撮影

この時期、書店に並ぶ案内書やインターネットで「日本3大桜」とか桜の名所・名木を調べて訪ねるのもよいが、まず身の回り

日」となる。サクラの品種は600とも言われ、同じ県内でも河津桜のように2月から咲き始める品種もあれば、地理地形の違いで開花時期はまちまちである。だから代表的品種であるソメイヨシノが主に県庁所在地などにある気象台の敷地内で開花した日が、その地方の「開花日」とされている。

本格的な「花見シーズン」を前に、あれこれと花見プランを立てるのも楽しい。

この時期、書店に並ぶ案内書やインターネットで「日本3大桜」とか桜の名所・名木を調べて訪ねるのもよいが、まず身の回りがある桜に目を止めてみたい。わが家の前の川沿いにも8本の桜古木がある。結婚記念で植えた庭の桜も、いつしか大木になった。思えばこの桜木たちは、わが人生とともに風雪に耐え、毎年律義に花を咲かせてくれたのか。誰にも身の回りに、そんな対話をしたい桜があるに違いない。その木を探すのも、一つの「花見」である。

静岡の桜の開花日、平年は3月25日だが、県内は3月8日夜から9日朝にかけて大雨となり、各地で記録的雨量となった。その後の暖かな春の日で、今年の開花は早まりそうだという。

早く咲いても、桜は必ず散る。それでも見たい桜がある。

(前静岡県監査委員・富永久雄)